CNCF 概要 日本語版

CNCF Overview

Dan Kohn, エグゼクティブ・ディレクター, @dankohn1

プレゼンテーションはこちらからも参照できます:

https://github.com/cncf/presentations



クラウド・ネイティブ・コンピューティング・ファウンデーション

Cloud Native Computing Foundation

• Linux ファウンデーションの一部として 2015年12月に設立、非営利



API





















ジャ・コール





简 LINKERD Service

Mesh

SPIRE 識別

サンドボックス

Sandbox



spiffe

識別仕様

プラチナ・メンバー:









































今日のLinuxファウンデーションは、Linuxをはるかに超える

Today the Linux Foundation is much more than Linux



インターネット全体を 暗号化する計画を 通して、世界的なプ ライバシーセキュリティ を支援。 ソフトウェア定義データ センタを迅速に改良す るために、ネットワーク 機能周辺のエコシステ ムを構築。



ネットワーク



クラウド用のポータビリティ・レイヤを構築し業界標準 (デファクトスタンダード) の牽引と、全てのクラウドに 対するオーケストレーショ ン・レイヤを開発。



自動車

自動車産業用のインフォティンメント・プラットフォーム を構築し、装置のクラスタ と移動体通信システムを 拡張可能ようにする。



ブロックチェーン



永続的で安全な帳簿を 構築し、費用効率が良く て分散散型のビジネス・ネットワークを簡単にする。 次世代のウェブ、モバイル、 サーバレス、IoTアプリケー ション用のアプリケーション 開発フレームワークを提供。













私たちは定期的にプロジェクトを追加しています。そのため、最新のプロジェクト一覧は tlfprojects.org をご覧ください



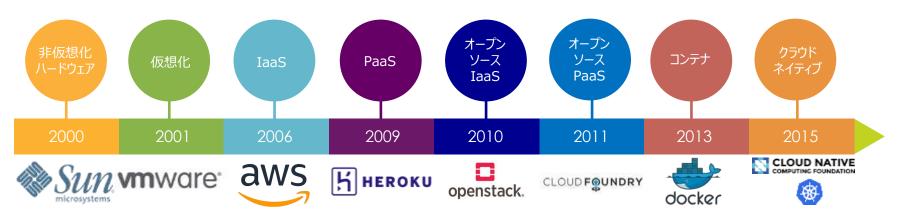
仮想化からクラウド・ネイティブへ

From Virtualization to Cloud Native





- クラウド・ネイティブ・コンピューティングはオープンソースのソフトウェアを積み重ね、次のために用います:
- アプリケーションをマイクロサービス(microservices)に分割し、
- 各パーツ自身をコンテナにパッケージし、
- リソース利用を最適化するために、動的に統合/オーケストレート(orchestrate)する





なぜプロジェクトがCNCFに参加するのか

Why Projects Join the CNCF



なぜプロジェクトをCNCFに参加すべきなのか

Why You Should Host Your Project at CNCF

- 中立的な場所により、貢献者を増やす
- CNCF技術監視委員会(TOC)の承認
- エンドユーザとサービス・プロバイダ・コミュニ ティとの業務連携
- 報道および専門分析家とのフルタイム渉 外チーム
- 年間何十万ドルでケース・スタディやその 他のサポート・サービス等

- 中立的な立場を維持する限り、コミッタの維持と各々のガバナンス(組織統制)を定義。
- フルタイムのスタッフが支援を熱望
- 国際的レベルのイベント・チームが世界中で KubeCon + CloudNativeConを進行し、皆さんのプロジェクト向けのカスタム・イベントを開催
- 世界各地の<u>ミートアップ</u>グループ
- <u>CIとスケール</u>をテストするためのクラウド・リ ソース



クラウド・ネイティブ トライアル・マップ

Cloud Native Trail Map

トライアル・マップ: I.cncf.io



CLOUD NATIVE TRAIL MAP

The Cloud Harve Limmons (cooks) Your artists in other of updates. This Clinical Native Trail Map is a reconstrument prorestrict technologies. At each time, you care reprinted himself on your nechanital work.

HELP ALONG THE WAY

A. Training and Certification

Consider touring offerings from CNEF drug then light life more for broncher o. Contributing pervises administrator or a Carriera Nuterrates Appropriate Storingo not at humor

B. Consulting Halp

If you want assumption with higher series and the instruments excepted, consider leveraging a reduceron Certifical

melining.

C. Join CNCF's End User Community

As consumed that she's offerstood subvenience and intervally medianovidam.

WHAT IS CLOUD NATIVE?

Chair retire terroritopes, such as croprositions to develop and doploy. recorded agree applications and services - tyrenc, day below presently. By taking was account these characters. labs, such restains are distingued to by market, starts, and tomery coupled. - mengonite attatactors and dude prive AFEs, transity enabling effective, collable justimization. This pilone engreserve to otherwise the applications and to softly more reportful charges, with violates in processing and wealthnay that Auty take advantage of these environments and minutes but

anable to drive adjusting of Ewise Statiretirement for the best and the part of the contract part of materialisms, weather resided presides. that siese with I have observables, and of each and perceive to patrick according and hybrid cloudy. We devraced on the about all the set purposes and presticate to impain empeatods remaid bash and properties for everyone.





1. CONTAINERIZATION

- applicables and writing below functionally to indictionally

3. ORCHESTRATION





5. SERVICE MESH AND DISCOVERY







7. DISTRIBUTED DATABASE





9. CONTAINER RUNTIME





4. OBSERVABILITY & ANALYSIS















6. NETWORKING







B. MESSAGING





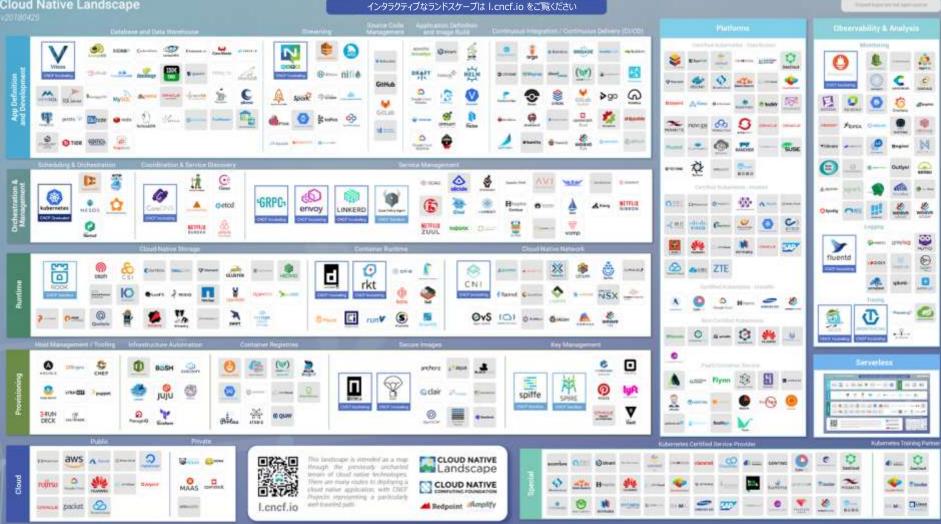


10. SOFTWARE DISTRIBUTION

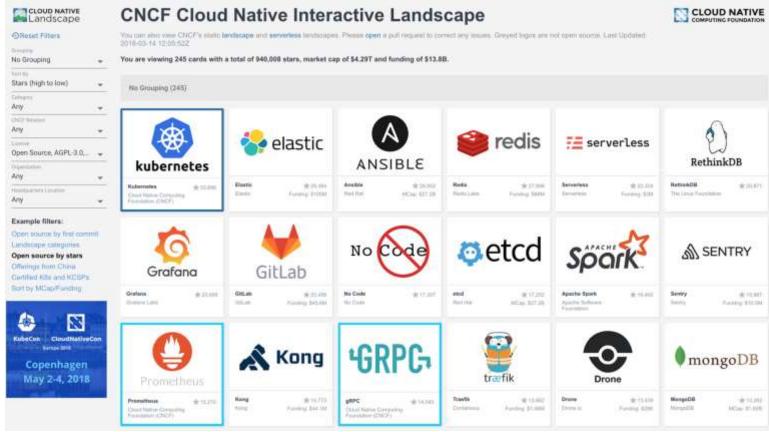




Cloud Native Landscape



今すぐお試しできます https://l.cncf.io



エンド・ユーザ・コミュニティは52社

52 Companies in the End User Community



























Morgan Stanley





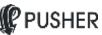




























































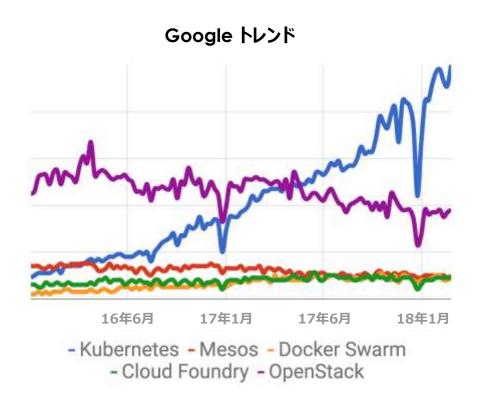


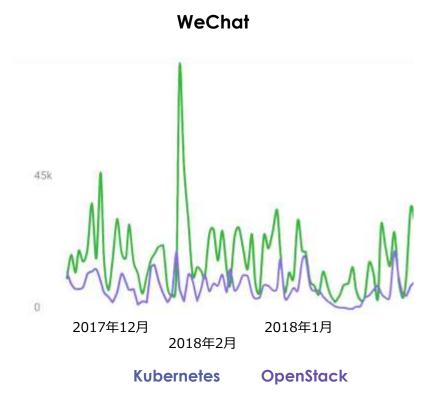
1



Kubernetesの検索トレンド

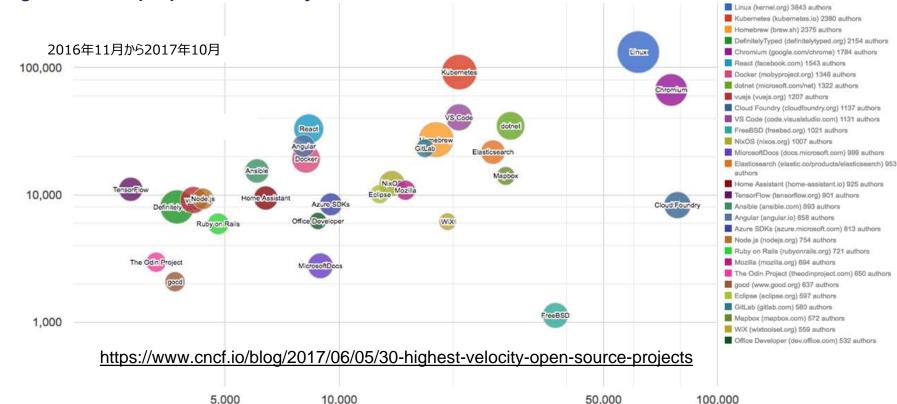
Kubernetes in Search Trends





勢いのあるオープンソース・プロジェクト上位30

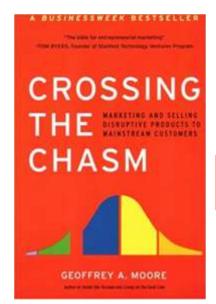
30 Highest Velocity Open Source Projects

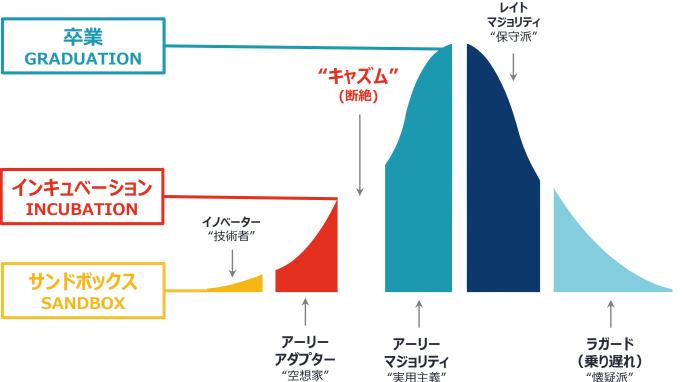




CNCF プロジェクトの成熟度

CNCF Project Maturities





CNCFの体制

CNCF Structure



- 大部分はベンター
- 組織に資金提供
- 9人の最上位テクニカル・アーキテクト
- 新規プロジェクトの承認
- マーケティングと戦略の指揮プロジェクトのリソースとして活動

- 技術を実際に使うエンドユーザ
- コミュニティの後押しが必要
- そして、良いあるいは悪い経験

CNCFへの参加

Joining the CNCF



220以上のメンバーに成長中

220+ Members and Growing

プラチナ・メンバー (Platinum Members)



























































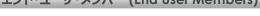




学術·非営利

Academic/Nonprofit

























ricardo.ch

エンド・ユーザ・サポーター (End User Supporters)













indeed









<u>Olark</u>



















ıntuıt



JD.COM



Morgan Stanley





PUSHER





SAP Concur C



































220以上のメンバーに成長中(シルバー1)

220+ Members and Growing (Silver 1)

































































































































































220以上のメンバーに成長中(シルバー2)

220+ Members and Growing (Silver 2)



























































































































































CNCF会員の価値(1)

CNCF Membership Value (1)

業界のリーダーシップ

- クラウド・ネイティブ市場を形成
- CNCFの他のメンバーとのネットワーク
- CNCFイベントの参加と発表の機会
- •分科会(SIG)への参加と、CNCF技術監視委員会 とエンド・ユーザー・コミュニティとの連携

マーケティング機会

- •CNCFプレスとの連携、分析専門家との連携、ウェビナーやその他のマーケティングに対する取り組みや機会による利点
- •マーケティング委員会に皆さんの社員が携わる
- CNCF技術をベースとした皆さんプロダクトやアプリケーションを、重要な業界イベントやウェブサイト、マーケティングにおいて、主要なものとして扱うのを担保
- CNCFが提供するあらゆるイベントのスポンサー料金を 3%割り引き(複数イベントにコミットする場合は5%)
- 私たちが扱うプロジェクトへの参加と、イベントやミートアップ、 ロードショウへの招待



CNCF会員の価値(2)

CNCF Membership Value (2)

技術リーダーシップ

- CNCF技術の方向性に関する貢献と影響のため
- ●皆さんのビジネス課題に対する、将来の機能強化や拡張に対するリーダーシップを促進
- 必要なドキュメントと将来の技術ロードマップに対する機能セットを案内できる能力

学びと機会

- •会員コミュニティーとの連携および共同作業により、皆さんのクラウド・ロードマップを拡張
- •会社の方向性と業界を横断しながら、一緒に取り組む
- マイクロサービス・アーキテクチャの一部として、オーケストレートされたコンテナのクラウド・ネイティブなプラットフォーム向けに、皆さんのアプリケーションとサービスを設計するために取り組む
- ◆知識を活用してプロダクトを作成し、アプリケーションを安全にすると、将来的に相互運用が可能となる
- CNCFアンバサダーとして働く資格



CNCF会員の利益と義務(1)

CNCF Membership Benefits and Dues (1)

プラチナ・メンバー(Platinum Members)

- •CNCF運営委員会に、代表者を1人指名
- あらゆる副委員会や運営委員会の活動において、投票メンバーを1人指名
- •ウェブサイトを含む最も目立つ場所に会員を表示
- Linux ファウンデーションの招待者のみに対するオープンソース・リーダーシップ・サミットへのアクセス
- CNCF実行委員会の常任理事とスタッフを、継続して 個々に選任できる権利
- •毎年\$350,000の支払いを3年間コミットメント

ゴールド・メンバー(Gold Members)

- CNCF運営委員会に、5 つのゴールド・メンバーごとに代表者を1人選出
- CNCF実行委員会の常任理事やスタッフになる機会が増える
- •毎年\$100,000

シルバー・メンバー(Silver Members)

- CNCF運営委員会の代表者を、3 名選出
- ●従業員数に応じて毎年\$2,000から\$30,000



CNCF会員の利益と義務(2)

CNCF Membership Benefits and Dues (2)

エンドユーザー・メンバーシップ (End User Membership)

- ◆シルバーメンバーと同様の利益と義務だが、エンド ユーザー・コミュニティに参加できる機会を含む
- ●技術監視委員会(TOC)およびCNCFコミュニティ に対する提言。TOCのメンバー1人に合う機会を 含む
- KubeCon + CloudNativeCon に対する5つのチケット
- •エンドユーザー・コミュニティはTOCとCNCF開発コミュニティに対し、認識している隔たりに関する提案機会や、優先度を提案できる

エンドユーザー・メンバーシップ (End User Linuxファウンデーション (LF) メンバーシップ

- CNCFメンバーはLFに対するメンバーである必要があり、 年間\$5,000から\$20,000
- •Linux周辺の大きなオープンソース・コミュニティやLFの50以上のプロジェクトと連携する機会の提供
- オープンソースのコンプライアンス、法的問題、技術の卓越性に おいて、親ファウンデーションに請える
- オープンソース・リーダーシップ・サミットとリーガル・サミット のような限定イベントに参加できる



CNCFとLFを合算した費用

CNCF and LF Combined Dues

プラチナ・メンバー

Platinum Member

ゴールド・メンバー **Gold Member**

シルバーまたはエンドユーザー・ メンバー

Silver or End User Member

\$120,000

\$370,000

\$50,000: 5,000 以上の従業員

\$45,000: 3,000 - 4,999 \$35,000: 1,000 - 2,999 \$25,000: 500 - 999

\$15,000: 100 - 499 \$10,000: 50 - 99

\$7,000: 従業員50人以下

\$500 非営利または \$1,000 学術

学術か非営利 **Academic or Non-Profit**

エンドユーザー・サポーター

End User Supporters

- CNCFのエンドユーザー・サポーター・プログラムはクラウド・ネイティブ・エンドユーザーに機会が得られるのを追加
- クラウド・ネイティブ技術を顧客に対して提供していない企業に限定
- サポーターはメンバーではない
- プライベート・メーリングリストや Slack への参加機会や、他のクラウド・ ネイティブ・リーダー達と毎月定例電話会議への参加機会
 - 年間\$4,500 (KubeCon + CloudNativeCon NA または EU 向けのチケット5枚を提供)
 - 従業員300人以下は\$1,800で会社向けにチケット2枚



直近のニュース

Recent News



Kubernetes適合認証

Certified Kubernetes Conformance

- CNCFはKubernetesに向けたソフトウェア適合認証 を提供開始
 - 適合試験の実施とアップロード結果を提供
 - 適合実装に対する新マークや、フレキシブルに使える Kubernetesトレードマーク
 - 対応している環境は K8s 1.9 および 1.10
 - https://www.cncf.io/certification/softwareconformance/



55の認定Kubernetesパートナー

55 Certified Kubernetes Partners































































































































CNCF MOOCとオンライン・トレーニング

CNCF MOOC and Online Training

- 無料の <u>Introduction to Kubernetes</u> (Kubernetes導入)
 は自己ペースのコースであり、edxが提供
- <u>Kubernetes Fundamentals</u> (Kubernetes基礎) コース
 - 内容は認定 Kubernetes 管理者 (CKA) 試験を扱う
 - \$299, 中級レベル
- オープンソースの<u>カリキュラム</u> や企業が提供する <u>トレーニング</u>
 - 大量ディスカウントによる CKA 試験クーポンが利用可能



オンラインKubernetes試験官試験

Online, Proctored Kubernetes Exams

- 認定Kubernetes管理者 (CKA)
 - 既に1,500以上が登録
 - https://www.cncf.io/certification/expert/cka/
- 認定Kubernetesアプリケーション開発者 (CKAD)
 - Kubernetesに対応したクラウド・ネイティブ・アプリケーションの設計、構築、設定変更、公開が可能なユーザであるのを証明
 - https://www.cncf.io/certification/expert/cka/ckad/
- 両テストに対して
 - テストは3時間を超え、コマンドラインで解決するシナリオを含みます。そのために同時に受験できない
 - 各試験は\$300
 - 四半期ごとのK8sリリースにあわせ、試験を更新



Kubernetes認定サービスプロバイダ

Kubernetes Certified Service Provider

サービス・プロバイダになるのを検討する段階では、事前条件となるのはエンタープライズでKubernetesの採用に成功するのに役立つ深い経験を持っており、サポート、コンサルティング、プロフェッショナル・サービスやトレーニングを提供します。

利点

- https://kubernetes.io/partners/ のトップに掲載
- クラウド・ネイティブのプロジェクト・リーダー達や、TOCメンバー、運営委員会の代表によって毎月 開催のプライベートなミーティングに参加
- kubernetes.ioに対する、サポートを必要としているエンドユーザーのリードにアクセス

必要条件

- 3人以上の認定エンジニア
- Kubernetesのアクティブな貢献を含む、Kubernetesコミュニティに対する実績のある活動
- エンタープライズとエンド・ユーザに対するサポートのビジネスモデル

https://www.cncf.io/certification/kcsp/



42のKubernetes認定サービスプロバイダ

42 KCSP Partners

















































































KubeCon + CloudNativeCon

- 中国
 - 上海: 2018年11月14~15日
 - スポンサーシップ 開始
- 北アメリカ
 - シアトル: 2018年12月11~13日
 - スポンサーシップ 開始
- ヨーロッパ
 - バルセロナ: 2019年5月21~23日









North America 2018



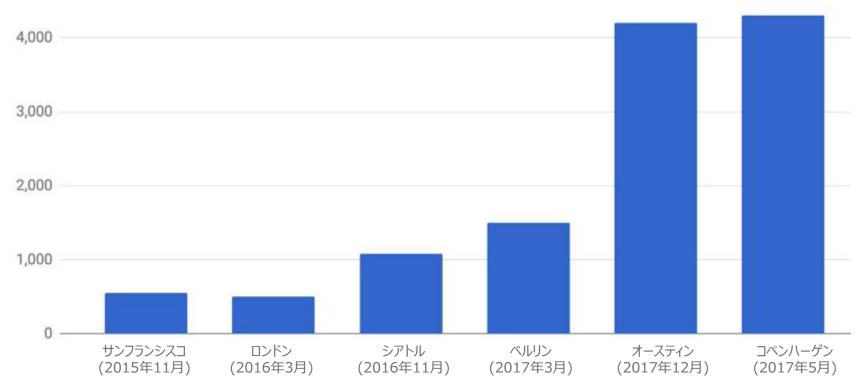


Europe 2019



KubeCon + CloudNativeCon 参加者

KubeCon + CloudNativeCon Attendees



CNCFへの参加は簡単!

Joining the CNCF is easy!

今すぐご参加を: https://cncf.io/join

あるいは

全般的なお問い合わせ: info@cncf.io

PR: pr@cncf.io

イベントのスポンサーシップ: sponsor@cncf.io

メンバーシップ: memberships@cncf.io



付録

Appendix



クラウドの歴史的概説

A Brief History of the Cloud



非仮想化サーバ: Sun(2000)

Non-Virtualized Servers: Sun (2000)



- 新しいアプリケーションの立ち上げ? 新しいサーバを買いましょう。 あるいは積み上がっているのを使いましょう
- アプリケーションの構築単位は物理サーバ



2000





仮想化: VMWare (2001)

Virtualization: VMWare (2001)



- •2001年にサーバ市場に対してリリース
- ●仮想マシン(VM)を一般化
- 1つの物理マシン上で多くの仮想マシンを実行するので、購入するサーバ数が減少!
- アーキテクチャ上の構築ブロックは仮想マシンになり はじめる







laaS: AWS (2006)



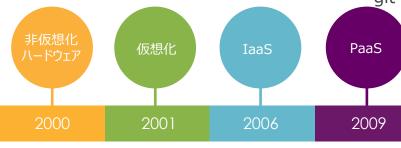
- Amazon Web Services (AWS) は2006年にエラスティック・コンピュート・クラウド(EC2)を提供開始し、サービスとしてのインフラ(Infrastructure-as-a-Service; IaaS)市場を作る
- •時間単位でサーバを借りる
- 設備投資から運用への投資に転換
- ●アーキテクチャ上の構築ブロックは、Amazon マシン・イメージ(AMI)と呼ぶ仮想マシン



PaaS: Heroku (2009)



- Herokuは2009年に提供を開始し、サービスとしてのプラットフォーム(Platform-as-a-Service; PaaS)が一般化
- •構築ブロックは buildpack であり、コンテナ化した <u>12-factor</u> アプリケーション
- コンテナが構築するプロセスは不明瞭。しかし、:
- 新しいバージョンのアプリケーションをデプロイするのは、たったこれだけ: _git push heroku









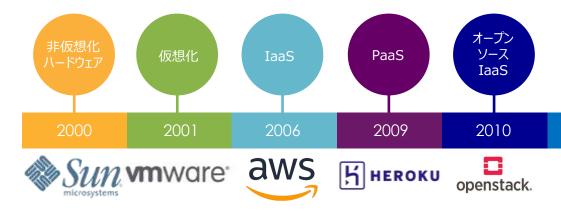


オープンソースIaaS: OpenStack (2010)

Open Source laas: OpenStack (2010)



- •OpenStack はオープンソースによるサービスとしてのインフラ (IaaS)を作成するため、様々なベンダーグループが大規模に協力
- AWS と VMWare の競合
- •構築単位は仮想マシンのまま



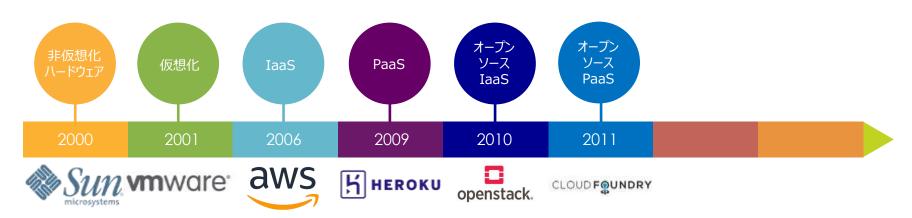


オープンソース PaaS: Cloud Foundry (2011)

Open Source PaaS: Cloud Foundry (2011)

CLOUD F QUNDRY

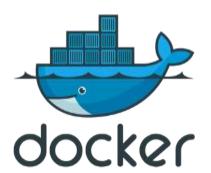
- PivotalはHerokuのPaaSを代替するオープンソースを構築し、2014年後半にCloud Foundryファウンデーションを設立
- 構築ブロックは Heroku の buildpack に相当する Garden コンテナであり、Docker コンテナや Linux 以 外の OS にも対応



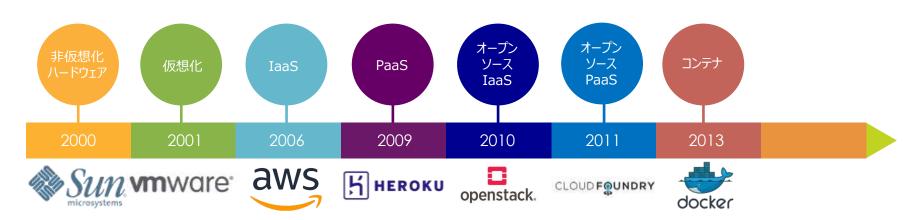


コンテナ: Docker (2013)

Containers: Docker (2013)



- DockerはLXC、ユニオン・ファイルシステム、cgroupを連携し、 世界中の数百万もの開発者に採用されるコンテナの標準を作成
- 開発者向けの技術としては、これまでになく早く起動
- 分離と再利用をできるようにし、不変性を保てる



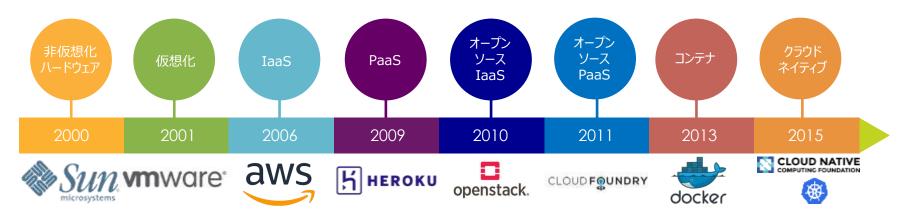
クラウド・ネイティブ: CNCF (2015)

Cloud Native: CNCF (2015)





- クラウド・ネイティブ・コンピューティングはオープンソースのソフトウェアを積み重ね、次のために用います:
- アプリケーションをマイクロサービス(microservices)に分割し、
- 各パーツ自身をコンテナにパッケージし、
- リソース利用を最適化するために、動的に統合/オーケストレート(orchestrate)する





これまでに何を学んだのでしょうか?

What Have We Learned?

- 構築ブロックの中心:
 - サーバ → 仮想マシン → Buildpacks → コンテナ
- ・分割の単位
 - 重いモノから軽量にすると、起動時間の短縮やサイズを小さくする
- 不変性(Immutability)
 - ペットから家畜へ
- ・プロバイダ
 - ソースの非公開から、単一ベンダーやベンダー間共通のオープンソース化



PaaSはいかがでしょうか?

What About PaaS?

- OpenShift、Huawei CCE、Deis、Apprendaはクラド・ネイティブ・プラットフォーム上に構築されたPaaSの例
- 多くの新しいアプリケーションは PaaS 上に 12-factor apps として利用可能になり始めている
 - 時折 PaaS よりも大きくなる
 - そして、アプリケーションによっては PaaS モデルに決して一致しない
- ・クラウド・ネイティブがサポートするのは、PaaSとその上の両方



クラウド・ネイティブの価値ある提案

Cloud Native Value Propositions



ベンダー・ロックインを避ける

Avoid Vendor Lock-in



オープンソースのソフトウェアの積み重ねで、 あらゆるパブリック、プライベート、ハイブリッドクラウドヘデプロイ



無制限のスケーラビリティを可能に

Enable Unlimited Scalability



素早さと保守性の向上

Increase Agility and Maintainability



依存関係を明示的に記載しながら アプリケーションをマイクロサービスに分割する

回復力を得る

Achieve Resiliency



個々のコンテナ、マシン、データセンターですら障害が起こっても、 必要に応じた様々なレベルに対応



効率性とリソース利用の改善

Improve Efficiency and Resource Utilization



どうかDan Kohnをフォローください

Please follow up with Dan Kohn

dan@linuxfoundation.org, @dankohn1 on Twitter

このプレゼンテーションは、こちらからも入手できます:

https://github.com/cncf/presentations

